

## 平成 29 年度 全国学力・学習状況調査（横浜市の結果）

平成 29 年 4 月 18 日に横浜市立小学校※ 6 年生（約 2 万 8 千人）、中学校※ 3 年生（約 2 万 5 千人）を対象に実施された全国学力・学習状況調査結果の概要をお知らせします。※義務教育学校、特別支援学校を含む

### 《 教科に関する調査結果 》

#### ◎調査結果からみる本市の特徴

Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題です。

- ・ 国語、算数・数学において、「知識」に関する問題よりも、「活用」に関する問題のほうが、全国に比べて1ポイントから2ポイント高い状況です。
- ・ 全ての教科において、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題の両方で、全国に比べて1ポイントから2ポイント高いか同等の状況です。

#### 小学校 「平均正答率（％）」

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
	<b>75</b>	<b>59</b>	<b>80</b>	<b>48</b>
	±0	+1	+1	+2
神奈川県	73	57	77	46
全国	75	58	79	46

#### 中学校 「平均正答率（％）」

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
	<b>78</b>	<b>74</b>	<b>65</b>	<b>50</b>
	+1	+2	±0	+2
神奈川県	77	72	64	48
全国	77	72	65	48

※ 文部科学省の公表と同様に、都道府県・政令指定都市の平均正答率は整数値で表しています。  
 また、全国の平均正答率については、文部科学省の許可のもと整数値に直して表しています。

#### ◎調査結果に特徴のある設問

全国の平均正答率との差が5ポイント以上あった主な問題は、次のとおりです。

##### 小学校

- ・ 国語Aの「漢字を書く(きぼう者)」問題が6ポイント低い。
- ・ 国語Aの「報告の説明として適切なものを選択する」問題が5ポイント高い。
- ・ 国語Bの話し合い活動における「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を考える」問題が6ポイント高い。
- ・ 算数Aの「1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量関係を数直線に表す」問題が5ポイント高い。
- ・ 算数Bの「与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を考え、その理由を記述できる」問題が5ポイント高い。

##### 中学校

- ・ 国語Aの「漢字を書く(えんき、いとなむ)」問題が7ポイント低い。
- ・ 国語Aの「語句の意味を理解し、適切な語句を選択する」問題が5ポイント高い。
- ・ 数学Aの「円柱の体積を求める」問題が5ポイント高い。
- ・ 数学Aの「 $10-6 \div (-2)$ を計算する」問題が5ポイント低い。
- ・ 数学Bの三角形の合同において「筋道を立てて考え、証明する」問題が7ポイント高い。
- ・ 数学Bの「与えられた式を解釈し、的確に処理する」問題が6ポイント高い。

《 生活習慣・学習習慣に関する調査結果 》

(抜粋)

◎教科に関する調査結果との相関

生活習慣・学習習慣と教科に関する調査結果において、明らかな相関が見られるもののうち、特徴的なものを示すと次のとおりです。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」に関係すると考えられる項目との相関

数値は国語と算数・数学を合算した平均正答率。ただし、「算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えているか」は算数・数学のみの数値。

	「知識」に関する問題				「活用」に関する問題			
	「当てはまる」と答えた児童生徒の正答率(%)		「当てはまらない」と答えた児童生徒の正答率(%)		「当てはまる」と答えた児童生徒の正答率(%)		「当てはまらない」と答えた児童生徒の正答率(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
前学年までに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたか。	81	73	62	62	58	60	35	49
先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたか。	83	77	64	60	60	64	37	46
学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいるか。	82	74	66	63	59	62	40	49
授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしているか。	81	74	68	63	57	61	42	49
算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えているか。	81	75	70	67	57	62	44	54

- ・ いずれの項目についても、「当てはまる」と回答した児童生徒の正答率が、「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、8ポイント以上高くなっている。
- ・ 自分で課題を設定し、解決に向けて主体的・対話的に学習を進めたほうが、15ポイント以上高くなっている。
- ・ 学んだことを普段の生活に生かそうとする児童生徒のほうが、11ポイント以上高くなっている。

(2) 本市で力を入れて取り組んでいる「自分づくり教育」「学校司書の配置」「国際社会で活躍できる人材の育成」に関係すると考えられる項目との相関

数値は国語と算数・数学を合算した平均正答率

	「知識」に関する問題				「活用」に関する問題			
	「当てはまる」と答えた児童生徒の正答率(%)		「当てはまらない」と答えた児童生徒の正答率(%)		「当てはまる」と答えた児童生徒の正答率(%)		「当てはまらない」と答えた児童生徒の正答率(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
自分には、よいところがあると思うか。	80	72	71	66	56	60	46	53
学校図書館にどれくらい行くか。(週に1~4回程度)	78	73	75	70	57	60	49	57
外国の人と友達になったり、外国のことについてももっと知りたいと思うか。	79	73	72	66	55	61	46	53

- ・ 自分にはよいところがあると思うかに関しては、「当てはまる」と回答した児童生徒の正答率が、「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、6ポイントから10ポイント高くなっている。
- ・ 学校図書館に週に1~4回程度行くと回答した児童生徒の正答率が、「当てはまらない(ほとんど、または、全く行かない)」と回答した児童生徒に比べ、3ポイントから8ポイント高くなっている。
- ・ 外国の人や外国に興味があると回答している児童生徒の正答率が、「当てはまらない(そう思わない)」と回答している児童生徒に比べ、7ポイントから9ポイント高くなっている。

## 《 授業改善に向けて 》

調査結果から考えられる授業改善の視点は次のとおりです。

- ・ 昨年度までと同様に、全ての教科において、「知識」に関する問題（A）より「活用」に関する問題（B）がよい傾向にあったことから、児童生徒に思考力、判断力、表現力等が育まれていると考えられる。基礎的な知識及び技能の習得を図るとともに、引き続き、知識及び技能を活用して課題を解決する授業の展開が求められる。
- ・ 基礎的な知識及び技能の確実な定着を図るためには、児童生徒が実生活や実社会につながる課題を自らが発見し解決する過程を通して、基礎的な知識及び技能を活用する場面を工夫し、児童生徒が必要感をもって学ぶ指導が大切になる。あわせて、学校の実情に応じて、家庭・地域と連携した学習習慣の定着に向けた取組を進めることが望まれる。
- ・ ある教科等で学んだことを、その教科等の中で生かすだけでなく、他の学習や日常生活に生かそうとする児童生徒の育成がこれからますます求められる。そのためには、各学校において、教科等の枠を超えて育成を目指す資質・能力を明確にしていく必要がある。
- ・ 児童生徒が身に付けた力を自覚することが、自分にはよいところがあると肯定的に捉えることにつながっていくと考える。そのため、児童生徒が目標（めあて・ねらい）を明確にもち、自分が何ができるようになったか、どのように学んだかを振り返るような授業が大切になる。

## 《 参考資料一覧 》

○文部科学省 全国的な学力調査（全国学力・学習状況調査等）

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm)

○国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

○神奈川県 全国学力・学習状況調査の結果について

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f531252/>

お問合せ先

教育委員会事務局 教育課程推進室長 松原 雅俊 Tel 045-671-3723